

キャリア教育



中学校

高校

総合

技術

情報

プロフェッショナル 仕事の流儀 44分

ワンクリックで、世界を驚かせ ～ウェブデザイナー 中村勇吾～

(2008年放送)

この番組の良さ



新たな表現媒体としてのインターネット

ウェブページは、文字や写真だけでなく、もはや新たな表現手法といえるほど高機能化、双方向化が進んでいます。また、漫画やアニメ、ゲームなどこれまで単なる子どもの娯楽として認識されていた日本製メディアも、海外では高く評価されており、コンテンツ産業は今後も発展していくと考えられます。

番組からは、コンテンツ制作には技術だけでなく、創造性やアイデアがいかに重要であるかが伝わってきます。

新たな職業観の発見

教師、生徒ともコンテンツ制作を職業として考える機会はまだまだ少ないのではないのでしょうか。中村勇吾氏の仕事ぶりを見ることで、単なる利用者としての視点から、情報を制作し発信する人々の苦勞と楽しさ、そしてグローバル社会の新たな職業観を垣間見ることができます。

番組活用のポイント

新たなコミュニケーションを創造する

ウェブデザインの仕事は、単に文字やデザインにとどまらず、ユーザーの興味を引くためのしつけや斬新な視覚効果を開発することまでを含みます。中村氏のウェブデザインは新しい表現手法を開発するだけでなく、作品を見た人々がいかに心地よいか、というユーザーの気持ちも重視しています。また、作品を通して「コミュニケーション」の場を作り、見る者が情報を人々と共有したり、ことばを伝えあったりしています。相手の見えないインターネットの世界であっても、「他者の存在」と「コミュニケーション」は必要不可欠な視点といえます。

グローバル社会での仕事

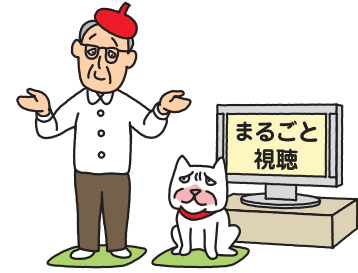
番組中では、アメリカからの依頼者とメールや国際電話で仕事を進めていく場面があります。中村氏も重要な場面ではアメリカに出向いています。グローバル社会では距離や時差の問題から、直接会うことが難しい相手も増えてきます。インターネットを利用すれば、コミュニケーション手段の選択肢を増やすことができます。価値観の多様化、広範囲化する社会の中で、これまでとは違った仕事の形態を知ることができるでしょう。

とにかくやってみる、試行錯誤すること

作品は、試行錯誤することで生み出されていきます。「繰り返し考え尽くせば必ず良くなっていく」と中村氏が言うように、失敗してもとにかくやってみる、実際行動に移してみる、というのは今の子どもたちにとって重要なことかもしれません。学校教育の中でも、与えられたことをするだけでなく、チャレンジ精神を育む環境づくりを考えていかなければならないでしょう。

学習展開例 授業時間 100分

創造することのおもしろさ アイデアをどんどん出してみよう



時間配分	学習活動	教師の支援
15分	<p>①未来の〇〇などを考え、ブレインストーミングする。</p> <p>②新しいアイデアを出して活発な議論とするためにはどうすればよいか考える。</p>	<p>○未来の携帯電話、未来の学校（教室）、未来の社会、未来のコンピュータやゲーム機の操作法など、教科や生徒の興味、特性に応じてテーマを設定する。</p> <p>○話し合いの中で、斬新・奇抜なアイデアなどはなかなか出てこない。新しいものを生み出す難しさとそれを打開する方法について考えさせたい。</p>
50分	<p>③どのように新しいアイデアを生み出すのか、に注目して番組を視聴する。</p> <p>④気づいたことをメモする。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  <p>視聴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までになかった新しい試みをしてみたい。 ・とにかく取り組んでみる。そこから試行錯誤が始まる。 </div> <div style="width: 45%;">  <ul style="list-style-type: none"> ・意欲を失ってしまったサラリーマン時代。給料をもらえるだけで仕事をしている自分に失望した。 </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  <ul style="list-style-type: none"> ・休暇中にいろいろなことを楽しみながら試す。次の仕事の参考になることも多い。 </div> <div style="width: 45%;">  <ul style="list-style-type: none"> ・世の中に一つとして同じ仕事はない。 ・仕事を通して、人生をいかに濃密に過ごすことが出来るか。 </div> </div>	<p>○ウェブデザイナーの仕事を例に取り上げるが、その姿勢は様々な分野でも参考になることを伝えておく。</p> <p>○以下のような点に着目させたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しいことをしてみたいという信念。 ・使う人が「なんだか気持ちいい」と思えるように心がけている。 ・とにかく実際に取り組んでみる。 ・作品の中にコミュニケーションを取り入れる。 ・充電期間に興味のある様々なことを試し、次の仕事のアイデアの基としている。 ・試行錯誤を楽しみつくす。 ・100回繰り返せば、必ず良くなっていく。 ・自分で面白いと感じなければ、人々にも伝わらない。 ・すべてを提示するのではなく、使う人が自分で気づくような仕掛けづくり。使う人が気づく余地を残す。 ・給料をもらえる、というだけの職業生活に失望した。 ・これまでと同じことをしては生き残っていけない。 ・まずは人の真似をすることから始めた。 ・その時々状況に応じて即座に反応していく「反射神経」のようなものが重要。 ・おもしろさの原点を忘れない。 ・一つとして同じ仕事はない。最初で最後、一生に一回の仕事でいかに濃密に過ごせるか、を考える。
35分	<p>⑤番組の中で印象に残った点、新しいものを生み出す秘訣について発表する。</p> <p>⑥ブレインストーミングの続きを行う。</p>	<p>○様々なことに興味を持ってアイデアを生み出していくこと、初めから良い結果は出ず、試行錯誤を繰り返していく過程が重要であることに注目させる。</p> <p>○奇抜なアイデアも重要だが、それだけで終わらないように注意する。試してみたり、再考したりしてよりよいアイデアに結びつくように助言する。</p> <p>○発想、創造の過程の楽しさに気づかせたい。</p>